

Model Graphix

ガンダム アーカイブス

『ガンプラ40周年 RX-78-2 ガンダム』編

モデルグラフィックス編

大日本絵画



Model Graphix
ガンダム アーカイブス

『ガンプラ40周年 RX-78-2 ガンダム』編

月刊モデルグラフィックス編

大日本絵画

Model Graphix

ガンダム アーカイブス

『ガンプラ40周年 RX-78-2 ガンダム』編 月刊モデルグラフィックス編

模型専門雑誌『月刊モデルグラフィックス』には'85年の創刊当初より数々のガンプラ作例やスクラッピルド作例が掲載され続けていますが、本シリーズはその膨大な作例群のなかからテーマを絞ってピックアップしました。今回は、ガンプラ40周年を記念してRX-78-2 ガンダムの作例を一挙掲載。PG UNLEASHEDなど、40周年を期に製品化されたものはもとより、過去に発売されたキットも盛り沢山でお贈りいたします。



*本書では基本的に雑誌掲載当時の記事表記に準じるようにしています。そのため、「本誌」=「月刊モデルグラフィックス」、「MG」=マスターグレード、「PG」=パーフェクトグレード、「センチネル」=ガンダムセンチネルの略となっています。また、記事中にあるマテリアルやキットに関する表記は掲載当時のものになっているため、現在は販売が停止されたり名称が変更になっていたり価格が改訂されてたりする場合がありますのでご了承ください（バンダイ ホビー事業部は'18年4月よりBANDAI SPIRITS ホビー事業部へと改編されています）
©創通・サンライズ

Contents;

PG UNLEASHED RX-78-2 ガンダム (BANDAI SPIRITS 1/60 パーフェクトグレード) 製作／堀越智弘	12
PG UNLEASHED RX-78-2 ガンダム (BANDAI SPIRITS 1/60 パーフェクトグレード) 製作／リョータ	48
EG RX-78-02 ガンダム (BANDAI SPIRITS 1/144 エントリーグレード) 製作／リョータ	64
HG RX-78-02 ガンダム (THE ORIGIN版) (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作／堀越智弘	70
HG RX-78-02 ガンダム [BEYOND GLOBAL] (BANDAI SPIRITS 1/144 HGUC) 製作／堀越智弘	76
HG ガンダム G40 (Industrial Design ver.) (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作／堀越智弘	82
HGUC RX-78-02 ガンダム No.021 (BANDAI SPIRITS 1/144 HGUC) 製作／TA2-YA	88
HGUC RX-78-02 ガンダム No.191 (BANDAI SPIRITS 1/144 HGUC) 製作／アーリーチョップ	92
HG RX-78-2 ガンダムVer.G30th (BANDAI SPIRITS 1/144 HG) 製作／学屋	98



PG UNLEASHED
1/60
RX-78-2 GUNDAM



新たなる究極のRX-78-2を作れる。

'80年の記念すべきガンプラ第一作1/144 RX-78 ガンダム発売から40年。'19年末から'20年末の40thアニバーサリーな1年間には、ガンプラ史に残るどんでもないRX-78の製品化ラッシュが到来した。'19年末のHG G40 (Industrial Design Ver.) にはじまり、1年間に7つものRX-78のガンプラが世に送り出されたのだ。

工業デザイン的な方法論で原典のRX-78-2を再構築したHG ガンダムG40、MGを1/144にそのまま落とし込んだかのような密度の濃いギミックとディテールを身に纏ったHG ガンダム (GUNDAM THE ORIGIN版)、可動に極振りすることでもしろ原典のガンダムの魅力を再確認させてくれたHG ガンダム [BEYOND GLOBAL]、初心者向けキットの概念を覆すエントリーグレード第一作となつたEG ガンダム、新たな動く1/144をモチーフとしたRX-78F00。それぞれにコンセプチュアルで異なるデザインアレンジを身に纏うガンプラばかりで、その時点でガンプラファンはうれしい悲鳴を上げることとなつた。そして、そんなアニバーサリー製品化ラッシュの大トリとしてとどめを刺したのが、このPG UNLEASHED (以下PGU) RX-78-2 ガンダムだ。

フルハッチオープングミックの搭載、多彩な質感表現と細密ディテールで魅せる内部構造、極めて自然なポーズをとることができ同時に高い保持力をも実現した可動ギミック、そして新機軸の驚くべき組みやすさ。「PGを超える新たなる“完璧”なRX-78-2」を具現化したPGU ガンダムは、40年というガンプラの長く深い歴史を真っ正面から受け止めて新たな地平へと押し上げるものだった。本特集ではそんなPGU ガンダムについてできるかぎり掘り下げて解説していきたい。

PG UNLEASHED RX-78-2 GUNDAM

ガンプラ40周年製品化ラッシュの大トリ
40年目にして新たな扉を開いた
ガンプラ最高峰にして究極のRX-78-2



●初代PG ガンダムが発売された'90年代末ごろから、ガンプラ、あるいはガンダムの立体物シーンは急速に多様化を進めていった。積み上げられる「ガンダム」アニメ作品、ガンプラ、ゲームなどのコンテンツは新たなファン層を呼び込み、それは同時にRX-78-2像の拡散を生んだ。40thアニバーサリーに次々と製品化されていったHG G40からRX-78F00までの多彩な

ガンダムはそういう多様化に対する回答だったようにも見える。そしてそのいっぽうで、多様化し拡散したRX-78のイメージを、改めていねいにひとつにまとめて上げることで新たな地平へと昇華した、そのような印象を受けるのがPGU ガンダムだ。なんにせよ、ガンプラ40thアニバーサリーは、後世のファンに語り継がれるであろう特異点のような一年間であった



2020

●初代PG ガンダムが発売されたのは'98年。当初「究極のガンプラ」を謳ってシリーズスタートしたマスターブラードのアイテム数が10を超える「完璧」を目指して開発されたものだった。

100
00
00

初代PG

●ガンプラ史上に輝く傑作中の傑作、初代PG ガンダム。初代PG ガンダムは「120点のガンダム」などと賞されたが、これは「満点=100を超えるもの」と言う意味の褒め言葉で、当時のガンダム系モデラーに大きな衝撃を与えた。その後も初代PGライクなガンダムのガンプラがいくつも生まれていった。MGくらいまで細身で原典とは異なる方向にアレンジを進めていったガンダム立体物シーンに、「ガンダムはやっぱり太くあってほしい」というテーマをつけ、同時にオモチャ然としたそれまでのプラモデルのイメージから完全に脱却した形状デザインをもたらした。また、インサート成型の半完成フレーム構造、全指可動ハンドパーツ、完全変形コア・ファイターの内蔵など技術的な進化も著しかった

PG UNLEASHED

●ガンプラ40周年を機に初代PG ガンダムからおよそ20年を経て新たなガンプラのフラッグシップとして生み出されたPGU ガンダム。一新されたデザインアレンジ、全身のハッチ開閉ギミック、フレームの多様な質感表現、新機軸の組み立て工程など、さまざまな要素がこれでもかばかり詰め込まれており、極めて高い完成度でまとめられている



初代PG

▶新たなアレンジとなりディテールは増えデザイン的なチャレンジもされているPGUだが、あくまで原典のイメージの範囲内に踏み留まっている。そこは、初代PG ガンダムから踏襲されたRX-78-2のガンプラのフラッグシップたる矜持なのではないだろうか



▲「SENTINEL 0079」ガンダムからMG Ver.3.0（と1/1立像）にいたるくらいまでは、「新たなる外観アレンジとリアルの提示」という指向が強かった。初代PG ガンダムはそのような指向のまっただなかで生み出された



PGU

'98年に発売された傑作、初代PG ガンダムは「120点のガンダム模型」と絶賛された。満点を超える120点。それまでガンダムのプラモデルは足りないところや原典とイメージが異なるところをモデラーが補うというのが常識だったが、この初代PG ガンダムはモデラーの創造力を上回る立体を提示した。ガンプラ的シンギュラリティーとでもいうべき革命的事件で、その後ガンダムの立体シーンでは初代PG ガンダムのイメージが基準点であり続けたし、20年が経ついまでも初代PG ガンダムの魅力は衰えない。そんな初代 PG ガンダムがあるところにそれを超える新しいPG ガンダムを創出するというハードなチャレンジ、それが“PG UNLEASHED”（以下PGU）だ。

実際にPGU ガンダムを組んでまず感じたのは、「恐るべきそつのなさ」だった。「そつがない」というとよくないニュアンスで受け取られるかもしれないが、RX-78-2 の可動する立体を目立って残念なところがないようにまとめ上げるのは至難のワザであり、最高の褒め言葉と受け取ってほしい。「コア・ブロックを内蔵したときの腹部可動問題」「デザイン上可動が制約される腰周辺問題」「大きく曲げたときの関節フレーム露出問題」「武器両手持ち問題」「シールドや武器の取りつけ穴露出問題」「ラストショーティング再現における肩アーマー位置問題」「足首アーマー周辺の隙間問題」「フルハッチオープン再現問題」「外観のアレンジをどこまで許容するか問題」……RX-78-2を立体化するときにこれまで問題とされてきたポイントを挙げていくと枚挙にいとまがない。さらに1/60のPGならではの問題として、「大きく重くなるパーツの保持力問題」「フラッグシップたるスゴさをどうするか問題」、そしてそれと相反する「スゴいキットにすればするほどパーツが増えて組みにくくなる問題」も難問だ。かようにRX-78-2の立体化は奥が深く難しいものなのである。

"UNLEASHED" = 「解き放たれた」 その意味するところとはなんだったのか。

**“120点のガンプラ”から“100点満点”のガンプラへ
組んでわかったPGU ガンダムのスゴさを語る。**

ガンプラ40年の歴史を背負い、約20年越しにPGを超える新たな「完璧なガンダム」として生み出されたPGU ガンダム。“UNLEASHED” = 「解き放たれた」と銘打たれたこのRX-78-2のガンプラは、果たして何からどのように解放されたのか？ まずはモデラー的視点で深めに考察してみることにしたい。

▶少しずつ進化を遂げてきたガンプラのガンダムの内部構造、それはRX-78-2の、外装形状やコア・ブロック内蔵という繋りをいかに克服するかというチャレンジの歴史だった



▼ガンプラ40周年でたくさんのガンダムが製品化されたがコンセプトはさまざま。HG G40（右）、やRX-78FOO（左）は、工業製品や実物のリアリティーをスタート地点として、斬新な外観アレンジであらたな地平に踏み込んだ前衛的なものとなっていた



◀基本的なイメージは原典のRX-78-2を踏襲しつつ、フレーム構造や可動などガンプラとしてのギミックを追求していたのが、HG THE ORIGIN版（右）やHG BEYOND GLOBAL（左）。ガンプラ40周年のガンダムではさまざまなアイディアが具現化されたが、PGUはその集大成的存在である

初代PG ガンダムは、革新的なイメージの提示であったいっぽうで諸問題のすべてに答えてはいなかった。そこにまだモデラーの手が入る余地があったわけなのだけれど、PGU ガンダムでは明確な意思をもって諸問題にきちんと答えを出してきている。それが「恐るべきそつのなさ」の意味するところだ。膨大なパーツ数のキットが驚く間もないほどにさくっと組めて、できあがってみるとRX-78-2としてあってほしいギミックで全身が埋め尽くされている。初心者でもひっかかりなくあっさり組める。そのいっぽうでベテランモデラーは、提示されたRX-78-2の諸問題の解決策ひとつひとつに感心させられる。そんなRX-78-2のガンプラはありそうでなかったし、実現できたことは相当にすごいと思う。「超一流のホテルは、サービスの存在を感じさせないように上質のもてなしを提供する」なんて言われることがあるが、まさにそんなカンジだ。

“UNLEASHED”とは「解き放たれる」という意味だが、PGUに関しては「過去を捨て去り自由に創った」ということではないようだ。RX-78-2のガンプラの歴史を尊重し驚くほど真摯に向き合った結果到達した新たな地平、それがPGU ガンダムなのではないか。開発者やメーカーの意図はまた違うところがあるのかもしれないが、いちモデラーとしては「ついに積年のRX-78-2諸問題について改造工作しないですむようになった」という意味での、すがすがしい“解放”感が新鮮だった。いっぽう同時に、残念なところに手を入れることにこそモデラー的モチベーションが發揮されたりするので複雑な気分も沸いてくるのだが……それはまた別の話である。（文／森慎二）■

BANDAI SPIRITS 1/60

PG UNLEASHED RX-78-2 ガンダム

"パーフェクト"の名を冠すからこそ
纖細緻密にして圧倒的な作り込み
PGUガンダム設計の妙を紹介

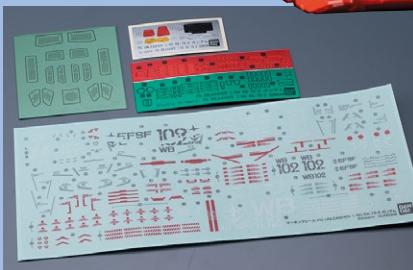
ディテール、質感、ギミック、組み立てやすさ、そのすべての面でガンプラの新フラッグシップモデルたる作り込みがされているPG UNLEASHED RX-78-2ガンダム。そのスゴさについて説明すべきところがたくさんありますので……まずここではポイントをダイジェストで紹介。ダイジェストでもかなり大盛りだぞ！

PG UNLEASHED
RX-78-2 ガンダム
BANDAI SPIRITS 1/60
インジェクションプラスチックキット
発売中 税込2万7500円
出典／『機動戦士ガンダム』



新しいけれど新しすぎない
RX-78-2らしさの塗装が絶妙

◀初代PGと比べるとスマートな印象になったが、PGならではの太さとメリハリ感は健在。全身にディテールが追加され形状にもアレンジが加わっているが、RX-78-2らしさを逸脱しない塗装が絶妙。「これぞガンダム」といった趣を楽しめる



豪華なシール類が付属

マーキングシール、ネーマーシール（通常のガンプラに付属するホイルシール）、メタリック3Dシール、エッチングシールが付属。メタリック3Dシールは厚みがあり光をあてると反射して光る。エッチングシールはゲートレスなので、剥がして貼るだけで金属質感ができる。これらをすべて貼れば塗らなくても左写真のように仕上げることができる

*ここではパーツの状態をわかりやすくするために、一部を除いてシール類を貼らずにパチ組みしています

はじめにいろいろなニュースや記事を見て「PGUは形状もギミックもすごいレベルで追い込まれている」と驚いた。しかし、今回の特集にあたり実際にキットを組む機会を得てもっと新しいと驚いたのは、じつはその形状でもギミックでもなかった。もっとも、「UNLEASHED」が新次元であることを実感させられたのは、その「組みやすさ」だった。

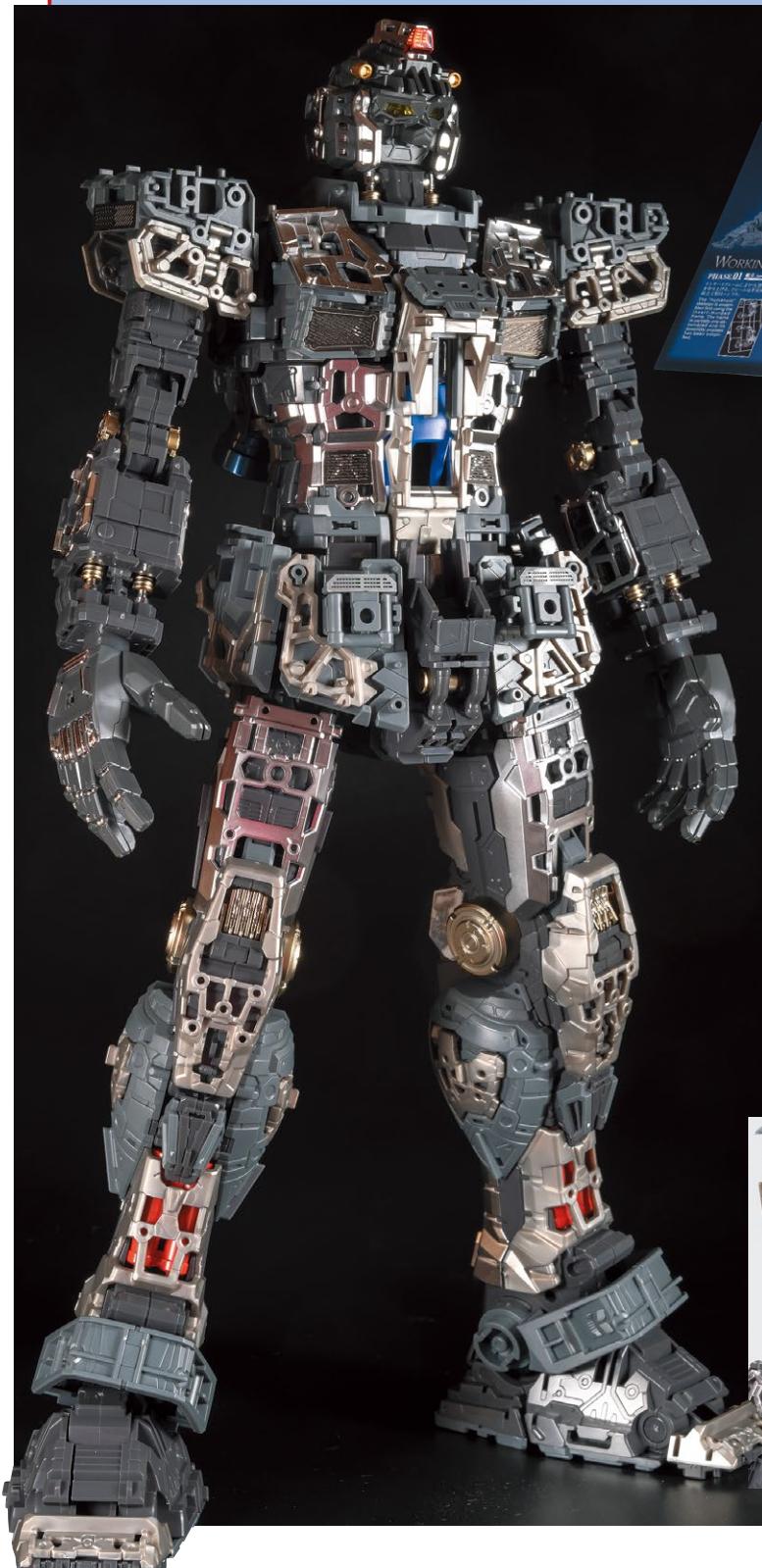
ガンプラの「組みやすさ」とは、パーツ分割や合いのよさを指していわれることが多いし、私もそう思っていたが、PGUの「組みやすさ」はそういうことではない。もちろん分割や合いもよいのだが、すばり、ランナー／パーツが探しやすいのである。しかも圧倒的に。大型MGやPGのレベルになるとランナー数は20を優に超える。実際 PGUもAランナーからはじまりアルファベット順にWランナーまである。これまでなら製作時間の多くを「L、Lのランナーはどうだ？」と探す時間に費やしていたわけだが、PGUではそうはならない。

ポイントのひとつめは、工程ごとに使うパーツができるだけひとつずつランナー枠に収まるよう、配置が工夫されているところ。ランナーをまたがないようになっているのでとてもパーツが探しやすく、ひとつの工程が終わってパーツがすべてなくなったランナーはその段階で捨ててしまうことができるのだ。そして、ポイントのふたつめはランナーを部分的に手でもぎれるようになっているところ。パーツを切り出し終えたところを部分的に捨てていくこともできるのだ。完全に工程ごとにランナー分けするランナー数が増えてしまつてある程度まとめるところで総ランナー数は抑えつつ、部分的に捨てていけるという工夫だ。このようにどんどん不要になつたランナーを捨てていいるので、作業が進むにしたがつてランナーが減り、どんどんパーツが探しやすくなつていくといった方法だ。

この新次元の「組みやすさ」、言葉にすれば単純な仕掛けのようだが実現するにはかなり精妙に計算されたパーツ配置が必要だ。設計陣の苦労が偲ばれるところである。

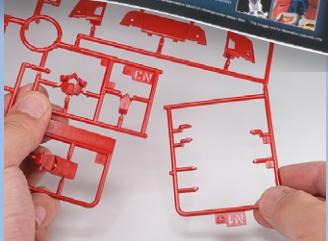
文/森慎二

ランナーがみるみる減っていく新次元の“組みやすさ”にびっくりした！



もぎって捨てられる！

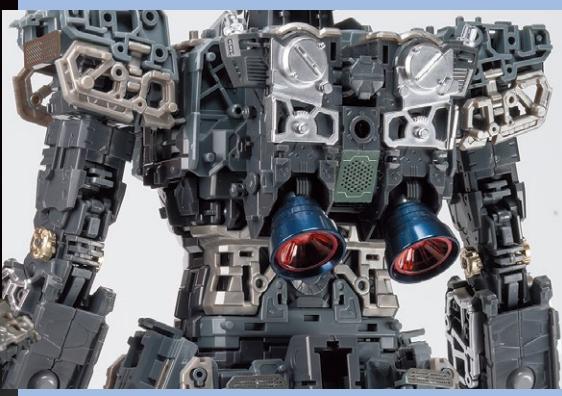
▶最新のガンプラが「組みやすい」のはあたりまえだが、PG UNLEASHEDではさらに一段飛躍。ランナー内のパーツが工程ごとにまとめられていてランナーを部分的にもぎられるので、工程ごとにパーツがなくなつたランナーをどんどん捨てていくことができる。使うパーツがまとまっているうえに作れば作るほどランナーが減っていくので、製作中にランナーを探す手間が格段に減り、それが組みやすさを生んでいる



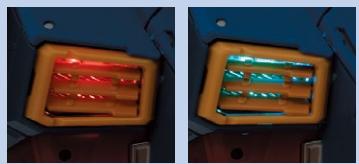
◀基礎フレームはガンプラ史上最大級のインサート成型フレーム「モビルスーツフレーム(MSF)」を採用。腕、脚、腰アーマー基部は切り出してのばすだけで基礎フレームができる。そのあとのフレーム／外装パーツを重ねていく工程に集中して楽しむことができるようになっている

圧倒的に多彩な質感表現

▶プラスチック製パーツにクロームメッキ、シルバーメッキ、ツヤ消しメッキ、メタリック成型色を同時に採用することで多彩な金属質感表現を実現。これらが多層的に組み合わさることでリアリティーを演出している



◀多彩なプラスチック成型色に併せてエッチングシールや金属製スラスター・パーツを採用することで、さらに質感に幅を持たせメカニック感を「フレーム」「一般的なコラモル」の領域を超越した質感表現となつた



あらかじめ電飾ユニットを同梱
ビーム・サーベルも光る！

PGUには電飾のためのユニットがはじめから同梱されていて、箱のなかのものを組み立て説明書どおりに作るだけで電飾されたガンダムを楽しむことができる（ボタン電池は別売り）。光る箇所は、額のカメラ部、カメラアイ、胸部ダクト内部、ビーム・サーベル、ランドセルのスラスター（発光するビーム・サーベルバーツ装着時のみ）。カメラアイ、胸部ダクトは発光色が複数色あり、スイッチングいろいろなパターンを楽しむことができる



電飾ユニットは頭部下側の胸部内に収まる構造で、そこからクリアーの導光パーツを介して発光する。完成後は胸部中央のブロックがスイッチとなり、引き出して戻すことで発光させたりパターンを変えたりすることができます

▶ビーム・サーベルはかなり明るく発光し雰囲気を盛り上げてくれる



▲ガンプラでは股間軸部分をスイングさせることで脚の可動域を拡げる可動ギミックが一般化してひさしいが、スイング式は、可動域は拡がるいっぽうで見れる角度によっては脚の付け根位置が不自然にならやすい。PGUでは、軸部を動かすのではなく、股間ブロック全体を上下方向に伸ばすことで、太もも外装と腰アーマー基部が干渉しないようにするギミックを採用



軸部を動かすのではなく
ブロック自体を伸ばす
新たな関節構造

▶股間ブロック全体を伸ばすようにしたことで股間軸位置が前後に移動しない。そのため大きく脚を上げるポーズをとっても脚の付け根のあたりが不自然に見えなくなつた。股間ブロックの可動幅は大きいか、この機構が見映えに与える効果はとても大きいといえよう

“パーフェクト”を体現する
繊細緻密にして圧倒的な作り込み
PGUガンダム設計の妙を紹介

まさに完璧。



じつは重要な腰アーマーの可動。この構造はリアルかも！

▶腰アーマー基部フレームにはMSFを採用し、ダブルウィッシュボーンのような構造で前後方向にストライドさせられる。これにより太もも上部の干渉を避けたり、腰をひねって

いるように見せたりすることが可能となった。MSの弱点である股関節部の装甲なので、「被弾時の衝撃を逃がす構造」と捉えれば、兵器としてのリアリティーも兼ね備えた構造だ



よく動くのはあたりまえ
どう動くかが重要なのだ

▶ヒジ／ヒザが二重関節で180度近くまで動くのはもはやあたりまえになりつつあって、問題となるのは可動の「質」だ。とくにRX-78-2は、外装デザイン的に大きく曲げるとグレーの関節が大きく露出しがち。PGUでは絶妙な可動軸位置とアウトラインを意識したスライド可動により、人型を崩さない質の高い可動を実現。原典に近いイメージを楽しめる



▶肩関節部は、2軸のせり出し機構に3軸の関節ブロックを接続する凝った構造。左右独立して引き出したり傾けたりできることができかなり自由度が高い。可動範囲も適度で大きな隙間が空くこともない

▶肩アーマーが上側にある状態で大きく腕を上げることができるのはすごい。この機構によりいわゆる「ラストショーティング」ポーズも違和感なくとることが可能

単に引き出せるだけでなく
自由度がとても高くなつた肩関節



“コア・ブロック問題”を
見事にクリアした胴体

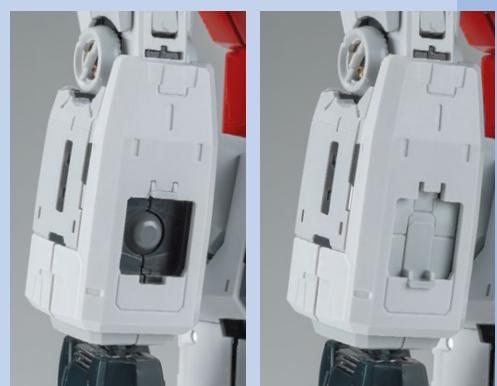
▶MG以上のグレードのRX-78-2ではもはや避けては通れないのが着脱できる内蔵式コア・ブロックの再現。PGUではコア・ブロックを内蔵しつつも胴を前後左右、そしてひねり方向にも可動させられるようになっている



“取りつけ穴問題”を徹底的に解消
シールドは磁石埋め込み式で脱着可！



▼取りつけ部はハッチ開閉式にすることで、シールドを取り付けていないときに不格好な取りつけ穴が露出することもなくなった。ハッチを開けたときに見える丸いバーツは塗装済みの金属パーツで、ここにシールドマウントの磁石を合わせる構造



▲これまでさまざまな方式が試行錯誤されてきたRX-78-2のシールド装着法。昨今の模型誌作例では磁石を使った方がよく使われるが、ついに製品でもマグネット式を採用。RX-78-2のシールドは1/60サイズだとかなり大きくなり重量もかさむ。マグネット式を採用することでしっかりと保持できるよう配慮されているのだ

顔はガンダムの命！ カッコよく仕上がってます

▶頭部はクセのないシャープでカッコいいフォルム。カメラアイ周辺は黒に色分けされ、フェイスは精悍な印象になっている



◀バルカン砲口は金属製挽き物パーツが同梱されている。ハメ込むだけで金属パーツならではのシャープな造形を楽しめる。また、可動するシリンドーディテールが配された首部は可動範囲が広く、大きく上を向かせることも可能

▶ハンドパーツは表裏とメッキパーツの三層構造に手甲を組み合わせる構造。隙間からメッキパーツが覗くようになっており、塗り分けをしなくとも関節部分をリアルに見せられる



あえての固定指採用に拍手を贈りたい！

◀フォルムと実用性を優先しあえて固定指を採用了したハンドパーツ。大きな武器パーツもしっかりと保持でき、平手、握り手ともに良好な指の形状を楽しめる

▼PGUにはシートから剥がして貼るだけのエッチングシールが付属している、あえて奥まったちらりと見える箇所に絞って配置されているのがニクい演出。金属パーツならではのシャープな質感でメカ部を盛り上げている



多彩な質感で魅せる

▲メッキパーツや金属製パーツ、クリアーパーツを適所に配置することで質感豊かに魅せているPGU。HGやMGではグレー1色であり見映えのしにくいランダセルも、金属パーツのスラスターなど見えてくるエッチングシールなどの採用でとても見応えがある

▼コア・ブロックは、固定式でメカを再現したもののコア・ファイターに可変するものが付属。コア・ファイターはもちろん完全変形で、コクピットの回転、キャノピーの開閉、ミサイル・ランチャーの展開ギミック、運動可動の尾翼ギミックを備えている

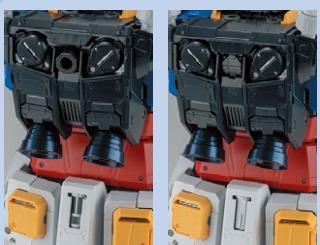
ついに脚が可動して収納可能に完全変形コア・ファイター



▼1/35でも再現されなかった着陸脚の収納展開ギミックを搭載。胴体側の脚庫は翼のつけ根部がスライドしハッチを兼ねる

こんなギミックにも磨きがかかりました

▲ランダセルと腰後面のシールド／ライフル取り付け部は回転式。取りつけないときには穴を隠せて外觀を損ねない。腰にビーム・ライフルを取りつけられるのはガンプラでは意外とめずらしいギミックだ



◀股間の大気圧突入用装備収納部が開閉するのは初代PGからだが、上側の赤い部分を押すと閉じられるようになったのが特筆すべきポイント。外装を外さずに閉じられるようになったのはうれしい

ビーム・ライフルも見どころ満載

▼ビーム・ライフルのポイントは、可動するようになったトリガーと、位置を微調整できるフォアグリップ、そして自由に動かせる照準器。フォアグリップは左右方向に回転するだけでなく前後方向にも微妙に動くので、両手持ちのときに左手をきれいに添えやすくなっている



BANDAI SPIRITS 1/60
PG UNLEASHED RX-78-2 ガンダム

"FULL HATCH OPEN"

圧倒的存在感と立体情報量
PG UNLEASHED RX-78-2 ガンダム

圧倒的じゃないか。PGを超えるPGとして生まれた“PG UNLEASHED”、その製品の良さを活かし、ていねいな塗装仕上げで完成させたのが本作例だ。もちろんプロポーションやギミックには手を入れずその魅力をさらに引き立てるよう製作している。完成したガンダムが醸し出す圧倒的立体情報量と圧倒的存在感。ガンプラが新たなステージに到達したことへの敬意を表したい。

PG UNLEASHED
RX-78-2 ガンダム
BANDAI SPIRITS 1/60
インジェクションプラスチックキット
発売中 税込2万7500円
出典／「機動戦士ガンダム」
製作・文／堀越智弘





RX-78-2 GUNDAM



9784499233446

ISBN978-4-499-23344-6 C0076 ¥3900E



1920076039003

定価(本体3,900円+税)

Model Graphix GUNDAM ARCHIVES "RX-78-2 GUNDAM"

© 創通・サンライズ

